保健部zoom会議録　7月28日（火）

参加者

西澤、藤原、中川、川邊、西尾、丸田、高木、須山、藤原、中島、綿貫、村瀬、埜村、増渕、見城

村松、玉置

第1部

**１）夏季合研**

川邊

事前準備は副部長・運営を中心に行います。また、当日も参加人数が限られているため、こちらも副部長・運営を中心に参加をします。(zoomによるオンライン参加可能:先着100名まで)

夏季合研までにあと3回あるが、今日が報告資料についてじっくり話せる日のため、しっかり話し合っていきましょう。

**２）研究経過　報告資料**

１領域の特性に応じた学習課題の捉え方

（１）保健領域の特性

調査研究部からは学習指導要領を根拠にすること、子供たちが保健領域の学習を通して得るうれしさ楽しさをについて触れること、という話があった。

運営では、学習課題をメインにして保健領域の特性を書いたほうが良いのではという話が出ている。小グループでは子供たちが嬉しさ楽しさを感じることができるような保健領域の特性について検討をしていただきたい。

（２）上記特性を踏まえた保健領域のおける学習課題

　①1案～3案まであるため、小グループで後ほど検討を。また、学習課題１～３の枠組みについては調査研究部から出ている形式。そこに、保健領域での学習課題を合わせている。

　②は子供が描きそうな学習課題について各学年ごとに示している。保健領域部は運動領域部と異なるため、分かりやすく伝えるためにどんな文言がいいか、また内容や整合性について検討をしてほしい。

１グループ

　保健領域の特性については大きくとらえられていてよいのではないか。案１～3では案２・３が良いのではという話になった。イに繋がるもとの課題だと考えると少し大きめの文言でもよいのではないか。

２グループ

保健領域の特性に時間をかけて検討した。文言として、保健の特性としては良いが、調査研究部で求めているのは、この特性を通して子供の楽しさや喜びを表現することを求められているのではないかということで、以下3点を検討してみた。

１自己理解ができる

２将来の見通しができる

３自信がもてる

案2については、現在のみに焦点が当てられているのではないかと感じた。保健領域として先を見据えたフランクな表現に変えられれば良いのではないか。

3グループ

（１）の特性にについて、子供たちが喜びや楽しさを感じられるように文章を考えていきたい。また、知識及び技能についてはわかりやすい表現にした方がよいのではないか。がよいのではないか。

（２）については案１が良いのではないか。案２の振り返りについては経験していないことは振り返れない。つなぎ合わせるという言葉は保健部では今まで使ってこなかった言葉のため、つなぎ合わせるという言葉の説明が必要になるのではないか。

イの１について「児童が興味関心を抱けるようにする」は「児童が見通しをもてるようにする」と変えた方がよいのではないか。また、「不安」についても文言で触れた方がよいのではないか。

4グループ

案１と案２がよいのではないか。案１の実生活に生かしていく、というのが保健の特性だと感じた。案２は自分の生活を振り返ることに繋がるから。

学習課題例については３にも5年生を入れたほうが良いのではないか。

第2部

**２）研究経過　報告資料**

２１に示された学習課題を子供が一人一人見出す手立ての方向性

川邊

保健部の授業をどのように改善したら一人一人が課題を見出せるのかという視点でも見ていただきたい。

村瀬

前回出てきた資料を基に作成している。具体的な手立てについては今後検討していくとして、今回は保健全体の中での手立てについて作成した。

（１）思考を促す教師の発問の工夫（→課題１～３に繋がるのではないか）

（２）養護教諭との連携　（→課題２に繋がるのではないか）

（３）学習カードの活用　（→課題３に繋がりやすいのではないか）

　　手立てを3点あげたか、この方向性でよいのか。他にはないのか。文言的にはどうか等、様々なご意見をいただきたい。

西澤

　　課題解決的な学習をどのように改善していくことが、子供たち一人ひとりが課題をっ見出す学習過程になるのか。今までに出てきている課題は保健部が研究してきた成果ではないか。今までやってきたことをどう改善していくかという視点で考えていって欲しい。

1グループ

（１）について、発問の工夫に加えて資料の活用も必要ではないか。資料+発問で揺さぶりになるのかなと感じた。

（２）は素晴らしい。

（３）これが終わりでなく、今後の生活を見直すような、継続をするような書きぶりになるのが良いのではないか。また、卒業までというゴールを最初に設定して考えていくのもよいのでないかと話題に出た。

2グループ

課題をどう改善していくかについて。今までの保健領域部会は課題解決型の王道的のパターンだったが、学習過程を柔軟に型を外して考えるとよいのではないか。

学習過程の細かな手立てとして、養護教諭との連携、学習カードなど様々な方法があるのでは。また、得た情報をどう判断するのかという情報リテラシー的様子もあるのではないか。

３グループ

　3つとも大事だと感じた。（１）の①～③について、もう少し具体的に示されているとより分かりやすいのではないか。（３）の思考の流れが分かりやすいレイアウトについては、今後検討していくにあたり、難しくなっていくのではないか。また、3つ以外に資料の活用であったりICTの活用もあるのではないか。

４グループ

　学習課題を自ら見出すために何を大切にするのか、その方向性を示すことが大事なのではないかと話し合った。その方向性として

１身近に感じさせる工夫

２将来を想起させる工夫

３自分の生活をい見つめさせる工夫

４他社と分かち合う工夫

常任理事の先生方より

藤原先生

それぞれ色々な意見が出た。これらを整理して、8月4日またよろしくお願いします。

西澤先生

あまり型にはまらず、柔軟な頭で研究を楽しく頑張りましょう。

次回部会予定：8月4日（火）18：30～20：00　zoom会議